

東北技術事務所体験型土木構造物実習施設 利用要領

（目的）

第1条 東北技術事務所体験型土木構造物実習施設利用要領（以下、「利用要領」という。）は、東北技術事務所が管理・運営する体験型土木構造物実習施設（以下、「実習施設」という。）の利用について必要な事項を定めることにより、実習施設の安全かつ円滑な利用促進を図ることを目的とします。

（利用の要件）

第2条 本利用要領の定めを遵守いただければ無料で利用可能です。
ただし、東北技術事務所の業務の都合によりお断りする場合があります。

（利用可能なコース）

第3条 利用可能なコースは〔別紙ー1〕でご案内しているコースとし、組合せ選択が可能です。

なお、所要時間は東北技術事務所の講師が説明を行った場合の目安であり講師が不要な場合は、東北技術事務所職員立ち合いのもとで最大180分を目安に利用者が時間を決定することが出来ます。ただし、非破壊検査の機器を利用する場合は講師が必要です。

（利用可能日、時間）

第4条 実習施設の利用可能日、利用時間は次の通りです。

利用可能日：毎週水曜日（行政機関の休日を除く）

利用可能時間： 9：00～12：00（180分）

13：30～16：30（180分）

なお、気象状況等により利用困難な状況が予想される場合には、申込み受付担当より前日までに連絡し、中止もしくは利用日変更についてご相談いたします。利用日変更を希望する場合は、曜日にかかわらず行政機関の休日以外で調整いたします。

（利用の申込み）

第5条 1. 実習施設の利用は、体験型土木構造物実習施設利用申込書（以下、「申込書」という。）に必要事項を記入し、利用希望日の14日前までに申請下さい。

申込書は、東北技術事務所のホームページからダウンロードして下さい。

「東北技術事務所」で検索

<http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/gijutsuryoku/jinzai/taikengata.html>

2. 利用希望者の申込状況により、利用日を調整させていただく場合があります。

3. 実習施設の利用申込みは1回あたり5名以上とし最大で20名程度を基本としますが、20名以上の場合でも2班程度に分割することで対応可能な場合が

ありますのでご相談ください。

また、10名未満の少人数の場合は他の利用希望者との合同利用となる場合があります。その場合は、説明対象コース、実習モデルの内容を調整する場合があります。

（利用日の当日）

第6条 利用日当日は、ホームページでご案内している集合場所（品質試験棟）へ直接お越しください。

（その他の注意事項）

第7条 利用者は、以下の注意事項にご留意願います。

1. 実習施設の利用中は、東北技術事務所職員の指示に従って下さい。
2. 利用者の責に帰すべき事由により、実習施設もしくは備付け物品等を亡失又は破損したときは、利用者において補填、修理又はその損害額を弁償していただく場合があります。
3. 利用者は、実習施設の利用に伴う事故や怪我等の責を負うこととなります。利用にあたり、細心の注意と装備の準備をお願いします。

体験型土木構造物実習施設のコース概要

体験型土木構造物実習施設の利用は以下のコースをご参照下さい。

コース名		体験実習概要
基本 コース	コンクリートⅠ (60分程度)	<p>【不適切施工】</p> <p>コンクリート構造物の不適切な施工による、材料分離・、豆板・、コールドジョイント等の不具合事例について、発生原因や防止方法などを学習。</p>
	コンクリートⅡ (30分程度)	<p>【表層品質と耐久性】</p> <p>コンクリート構造物の施工の丁寧・、不適切の違いによる表層品質や耐久性への影響を学習。 (表層透気試験、表層吸水試験、凍結融解試験 等)</p>
	コンクリートⅢ (60分程度)	<p>【非破壊検査】</p> <p>コンクリートの品質等の確認のための非破壊検査の方法や使用上の注意点を学習。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストハンマーによるコンクリート強度の推定 ・鉄筋探査器によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定
オプ シ ョ ン コ ー ス	橋梁上部工 (30分程度)	<p>【鋼箱桁、PC桁、損傷RC床版】</p> <p>東日本震災による被災橋梁および塩害等で使用不能となった橋梁の上部工モデル(実物)により、構造型式、被災状況、劣化損傷状況を学習。</p> <p>〔対象橋梁〕</p> <p>鋼 橋：鋼箱桁、RC床版</p> <p>PC橋：ポストテンション方式T桁 プレテンション方式中空床版桁</p>
	橋梁下部工 (15分程度)	<p>【配筋、耐震補強】</p> <p>橋梁下部工モデルにより、鉄筋組み立て状況や耐震補強工法の概要を学習。</p>